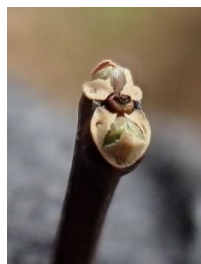


自然と文化科 活動記録 (委員会別活動)

日時	2025年1月31日(金) 10時～15時(曇り時々晴れ)	担当者
場所	企画；平野郷街歩き 観察；京都府立植物園 調査；枚岡公園の草本調査 社会貢献；大阪くらしの今昔館、懇親会	文：松川淑子 写真：松平盛夫
備考	参加者数 1班20名 2班20名 3班17名 4班15名 合計72名	

10時に観察委員19名＋代表が京都府立植物園入り口に集合する。今日は観察委員会学習チームの齊藤さんのフィールドである植物園を案内してもらう。【主に観察したもので()内はトピックス】

シマモミ(台湾固有種・別名タイワンアブラスギ)、**クマノミズキ**(筆ペン型冬芽)、**シナアブラギリ**(別名オオアブラギリ・アブラギリの葉身基部の1対の蜜腺には柄があるが、シナアブラギリの葉身基部の蜜腺には柄が無い)、**バイカウツギ**(陰芽)、**ヤマモミジ**(膜質鱗片)、**ヤハズホオノキ**(葉先が二股・モクレン科の特徴→托葉2枚と葉柄が合着して芽鱗を形成している。冬芽の展開で托葉が落ちた後を托葉痕と云い枝を1周する)、**アブラチャン**(他のクロモジ属に比べて葉芽は小さい)、**ジャケツイバラ**(予備芽は自然のものより少ない)、**ミツバウツギ**(仮頂芽)、**イヌビワ**(枝は何故緑色→抗酸化物質を持つ為)、**ヤマトアオダモ**(別名オオトネリコ・同属のアオダモに比べて小葉に柄がある)、**シラキ**(葉痕は三角帽子の小人さん)、**ツノハシバミ**(多数の雄花序・雌花は丸く春先に鱗芽の中から柱頭を出すは今不明)、**クスドイゲ**、**シモバシラ**(残念ながら気温が高く見られず)、**アテツマンサク**(岡山県阿哲地方で発見)、**イワガラミ**(側芽は十字対生)、**ゴモジュ**(御門樹)、**ミソナオシ**(種子はひつつき虫)、**アデク**(大阪層群が氷河期と間氷期を繰り返していた時期に間氷期時代の化石としてアデクが出土している。沖縄などで自生している)**ユリノキ**(アヒルの嘴の様な2枚の鱗芽)



バイカウツギ



ヤマモミジ



ヤハズホオノキ



シラキ



セツブンソウ咲きだす



イワガラミ

ノニレ(別名マンシュウニレ・ハルニレと同じ春に花を咲かせるが葉はかなり小さい)、**フウの果実**に生える**キノコ**(フウノホソツクシタケ)、**サウグルミ**(芽鱗は早落で裸芽になる)、**ハクウンボク**(葉柄内芽で落葉すると裸芽がみえる)、**オオババニガシワ**(ブドウの房状の雄花・雌花はほころび赤い柱頭が見える)、**シロバナウグイスカグラ**(葉は展開して、花芽膨らむ)、**シナサウグルミ**(裸芽で柄がある冬芽)、**シナマンサク**(マンサクは落葉するが、シナマンサクは枯れ葉が落ちにくく残る。黄色い花が咲きだす)、**ランシンボク**(別名カイノキ・赤い実が多数落ちている)、**アマミアセビ**(奄美大島固有種・絶滅危惧種、植物園で保護栽培をしている)、**シダレカツラ**(何故枝垂れるか？成長ホルモンのジベレリンの影響)、**トウサイカチ**(捻じれない豆果が多数落ちている、サイカチは捻じれる)



ノニレ(花芽)



フウノホソツクシタケ



オオババニガシワ(雄花・雌花)



本日はありがとうございました。